

「岩谷橋」の架け替えに向けて

～ みんなの思いを込めて 4代目 平成の岩谷橋 ～

県北広域振興局土木部 二戸土木センター

県では、二戸市において、安全で円滑な通行の確保と老朽化に伴う「岩谷橋」の架け替え事業に着手しており、現在、計画・設計を進めています。

計画・設計に当たっては、岩谷橋と周辺のまち並み景観や歴史景観を色濃く残す回廊等との調和を図り、さらに醸成させていくため、景観計画を策定することとしています。

【事業概要】

本路線は、二戸市の中心市街地を南北に縦貫する幹線道路であり、沿線には小・中学校や高校等の文教施設のほか市役所・商業施設などが集積しています。

岩谷橋北側の落久保交差点は、二戸市の東西と南北の交通軸が交差する交通量の多い交差点となっています。しかし、この交差点は、変則五叉路であるうえ、食い違い交差であること、そして南側に右折レーンが無いことから朝夕には混雑し、また、歩道も狭小であることから安全で円滑な通行が阻害されている状況となっています。また、岩谷橋は完成から60年以上経過しており老朽化が著しく、早急な架替が求められていました。

このため、本事業により、岩谷橋の架替及び前後道路の線形改良、拡幅、交差点改良を行い、安全で安心な通行空間の確保と都市内道路の機能向上を図るものです。



事業箇所

【位置図】



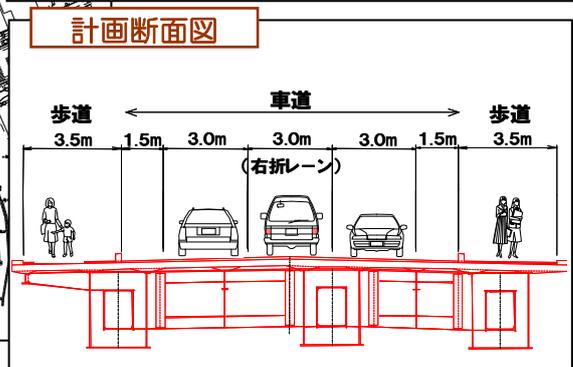
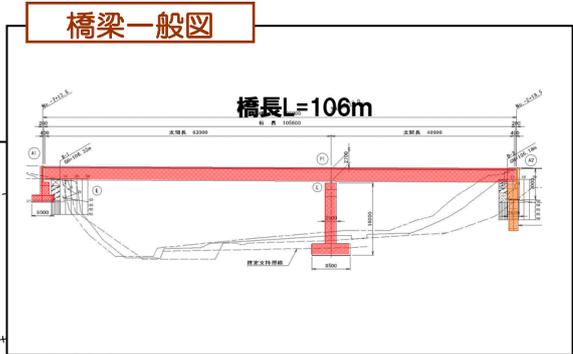
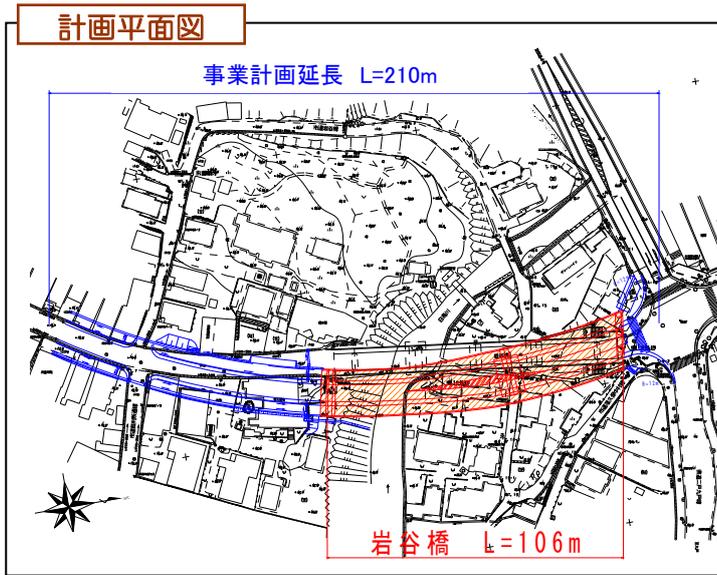
混雑状況

差し替えた地図は、別ページを御覧ください



岩谷橋

【計画概要】



【計画・設計における取組】

岩谷橋の計画にあたっては、自然、歴史、文化、風景などの地域資源を活かし、橋梁を主体とした道路の景観計画策定のため、有識者や地元代表者、各関係機関の方々に構成する「岩谷橋景観懇談会」を組織し景観検討を進めています。

また、住民の皆様にも愛着をもっていただけるよう、地域住民の思いや希望を語り合う「岩谷橋景観ワークショップ」を開催し、景観懇談会に報告することとしています。

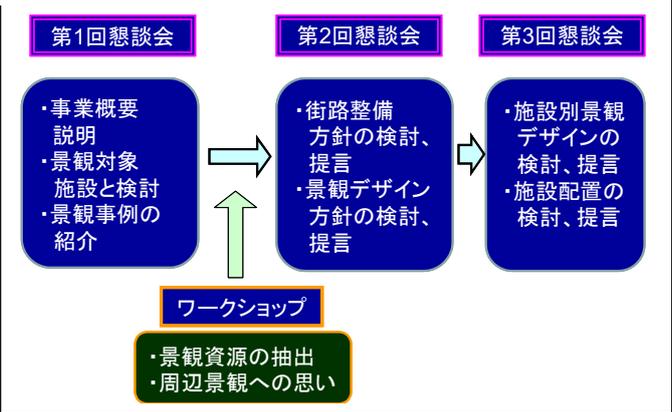
今後、景観懇談会から景観計画に関する提言を受け、橋梁計画・設計をまとめていきます。

【検討のあゆみ】

景観懇談会（第1回）は、昨年12月22日に開催し、検討が始まりました。

また、本年1月21日には、岩谷橋景観ワークショップを開催、地域住民25名が参加し、岩谷橋周辺の景観について、問題点や理想などについてそれぞれの思いを語り合いました。

【景観懇談会の流れ】



「岩谷橋景観ワークショップ」ニュース
2012年1月 発行

岩谷橋景観ワークショップが1月21日(土)開催され、住民の方や関係者約33名が参加し、グループワーク等を行いました。グループワークでは、地域景観の良い所・悪い所、現在の道路・岩谷橋の問題点、今後望まれる理想の景観について、様々な意見の交換を行いました。

みなさんの意見

- 地域景観の良い所**
 - 自然景観が良い、四季を感じる場所 (白鳥川、馬場川、折戸岳、河岸段丘の地形等) 「橋から眺める景観と、橋を渡る景観」
 - 歴史景観が好ましい (旧長井街道の名残り、九戸城跡)
 - 地域内の色彩が落ち着いた (町並み、小学校のデザインと色彩)
- 地域景観の悪い所**
 - 地域の景観、施設に統一性がない (住宅のデザインを揃いない、近隣の景観が異なる、二戸大塚との繋がりが無い、崖辺に空き家がある)
 - ごちゃごちゃしている (商店や歩道が狭く、電柱もあちこちで立っている、交差点の見通し悪い、樹木の伐採)
- 道路や岩谷橋の問題点**
 - 構造上の安全性の問題 (歩道が狭く危険、古い交差点で危険、自転車道がない、舗装が壊れる、歩道が凍結し危険)
 - 日常生活の不便 (交通量が朝夕渋滞、橋下の歩道が不便)
 - 生活上の問題 (水揚げが多い、橋が古くて汚い、道に樹木から虫が落ちて困る)
- 今後望まれる理想の景観**
 - 歴史的ゆかりを踏襲する景観との調和、ロマン (旧長井街道、岩谷橋へのアプローチ、歴史を感じる材質、色彩、橋柱の休憩施設)
 - 橋上からの眺望、川の眺望 (橋にバルコニーを設置し、眺望、憩いスペース、大正5年のアーチ状の橋)
 - 安全の確保 (歩道の凍結防止ロードヒーティング、通学生の安全確保、自転車通行、植栽は低木、電柱撤去)

改善する (改善する) / 良さを守る (良さを守る)

岩谷橋景観ワークショップに多数のご参加をいただきありがとうございました。ワークショップで出されました、みなさんの意見は、「岩谷橋景観懇談会」にお知らせし、岩谷橋景観計画(案)の策定に向け、具体的な検討を行っていきます。

県北広域振興局土木部二戸土木センター (道路整備課) 連絡先 0195-23-9209

岩谷橋の変遷

明治～大正～昭和

【明治の岩谷橋】

現岩谷橋の位置に架橋されたのは、明治21年の国道の開通にあわせ建設されたもので、九戸城の外堀を渡るような形で、当時としては非常に画期的なものでした（なお、旧道となった奥州街道の白鳥川に架けられているものが以前の岩谷橋です）。

橋脚には、九戸城の石垣が使われたといわれており、3本の橋脚に支えられた上部は木造で方杖形式のものでした。



資料提供：二戸歴史民俗資料館

【大正の岩谷橋】

上部工が朽ちたため、それまでの橋脚を利用し改修となったのは大正5年のこと。上部工は、当時の土木技術が駆使された美しいアーチ形式でした。なお、鋼材が使われた欄干は戦時中に供出され木製へと変わりました。

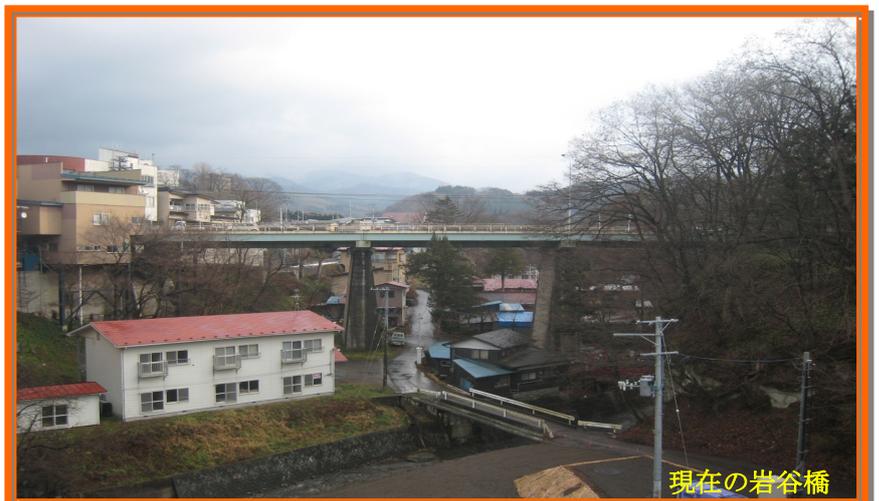


資料提供：丹野幸男氏

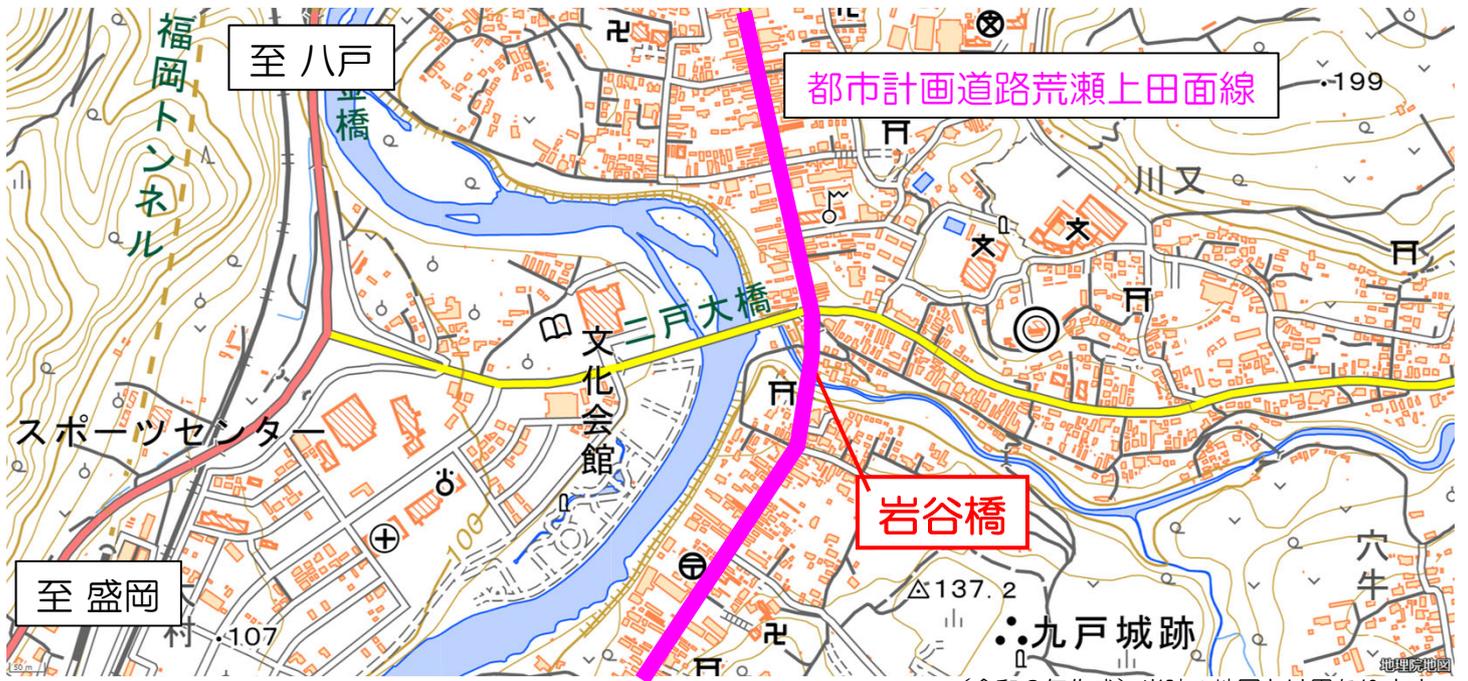
【昭和の岩谷橋】

現在の岩谷橋は昭和25年に建設され、上部工は鋼鉄桁＋コンクリート床版に改修されました。

なお、旧岩谷橋の橋脚の一部が使われコンクリートで覆われたといわれています。



現在の岩谷橋



(令和6年作成) 当時の地図とは異なります